



琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 25 年度(2013 年度)第 2 四半期)

琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき、琵琶湖および瀬田川で採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 25 年度第 2 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので報告します。

なお、本報告における調査は月の初めに実施しており、9 月の観測結果には台風 18 号の影響は含まれておりません。また琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

◎調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、(独)水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5m での毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m 地点今津沖中央 (通称「17B」)において、月 2 回実施しています。

◎調査結果について

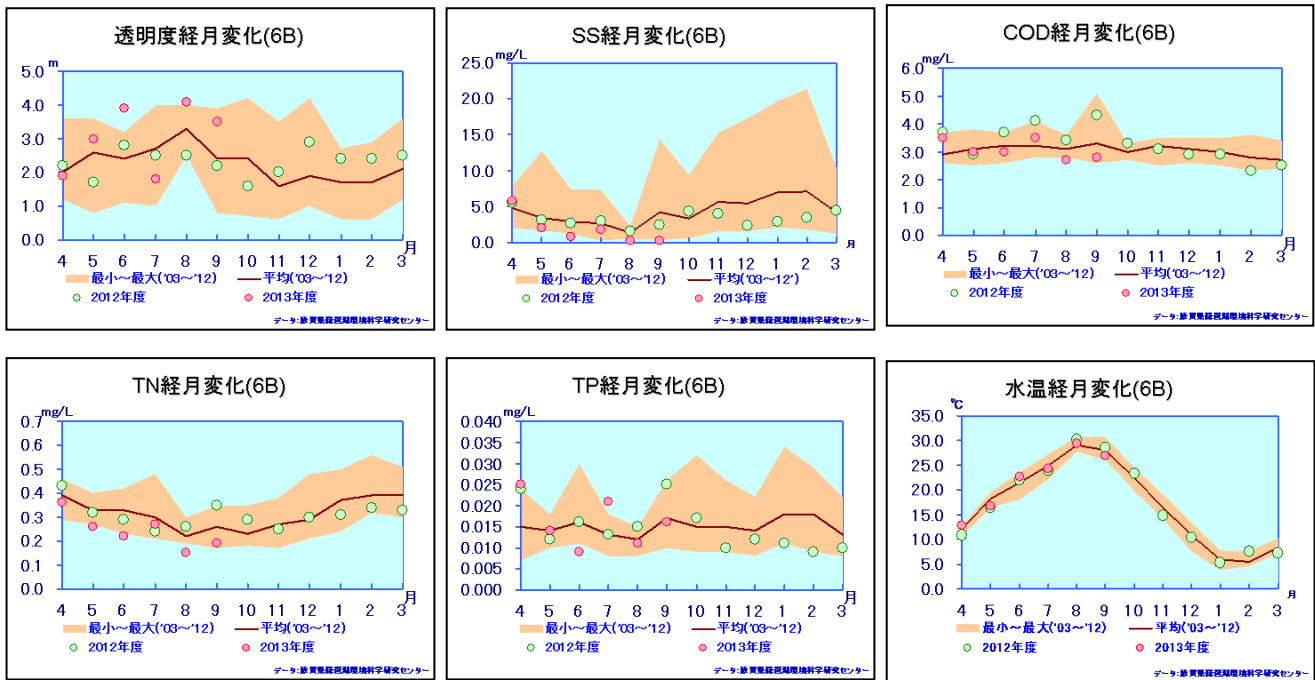
南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)、琵琶湖北湖の代表点として 17B のそれぞれの経月変化からみる平成 25 年度第 2 四半期までの水質概況は次のとおりです。

○ 唐崎沖中央調査結果

透明度については、7 月は過年度(過去 10 年間)よりも低い値を示しました。8 月から 9 月にかけては過年度よりも高い値を示しました。特に 8 月については過年度最高値を上回る 4.1m となりました。透明度に影響を与える浮遊物質(SS)の推移を見ると、7 月は過年度並の値でしたが、8 月から 9 月にかけて過年度よりも低い値を示し、8、9 月とも過年度最低値を下回る値(0.2mg/L)となりました。このことから SS の低下が透明度の上昇をもたらしたものと考えられます。有機物汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)については、7 月が過年度よりも少し高い値を示しましたが、8 月は過年度よりも少し低い値となり、9 月は過年度並の値となりました。富栄養化項目である全窒素(TN)は、7 月は過年度並みの値となりましたが、8 月は過年度最低値よりも低い値(0.15mg/L)となりました。9 月は過年度よりも少し低い値となりました。全りん(TP)は、7 月は過年度最高値よりも高い値(0.021mg/L)となりましたが、8、9 月は過年度並の値となりました。

水温は、7、8、9 月とも過年度並の値でした。





○今津沖中央調査結果

透明度については、7、8、9 月とも過年度並の値で推移しました。透明度に影響を及ぼす浮遊物質(SS)についても、7、8、9 月とも過年度並の値となりました。

COD については 7、8、9 月とも過年度並みの値でした。

昨年度は 7 月に植物プランクトンであるスタウラストルムの増殖により SS、COD の上昇が認められましたが、今年度は特に SS、COD の増加を伴うようなプランクトンの増殖は認められませんでした。

全窒素は、7 月は過年度並みの値でしたが、8 月は過年度より低い値となり、過年度の最低値を下回る値(0.14mg/L)値となりました。9 月は過年度並の値となりました。

また、全りんは 7、8、9 月とも過年度並みの値となりました。

水温も、7、8、9 月とも過年度並の値となりました。

